再評価結果

担　当　課：有料道路課
担当課長名：上野　進一郎

事業名	北関東自動車道（伊勢崎～岩舟JCT）	事業区分	高速自動車国道	事業主体	東日本高速道路㈱
起終点	自：群馬県伊勢崎市三和町 至：栃木県下都賀郡岩舟町大字小野寺			延長	39.9 ㎞

事業概要　北関東自動車道は群馬、栃木、茨城３県の主要都市と茨城港を結ぶと共に、東京から放射状に伸びる関越道、東北道及び常磐道と連結して高速道路ネットワークを強化し、更に上信越道、中部横断道と一体となって、東京から１００～１５０㎞圏を環状に結ぶ「関東環状道路」を形成する路線である。

Ｈ９年度事業化	Ｈ２年度都市計画決定 （Ｈ　　年度変更）	Ｈ１１年度用地着手	Ｈ１２年度工事着手

全体事業費	約2,247億円	事業進捗率	67 ％	供用済延長	16.0㎞
計画交通量	19,100～30,100台／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用	総便益	基準年
	(事業全体) 4.8 (残事業) 13.8	(残事業)/(事業全体) 884 / 2,551億円 事　業　費：583 /2,250億円 維持管理費：301 / 301億円	(残事業)/(事業全体) 12,181 / 12,181億円 走行時間短縮便益:10,783/10,783億円 走行経費減少便益: 1,031/ 1,031億円 交通事故減少便益: 367/ 367億円	平成20年

感度分析の結果　残事業について感度分析を実施

交通量変動　：　B/C = 15.2　（交通量　＋10%）　B/C = 12.4　（交通量　－10%）
事業費変動　：　B/C = 12.9　（事業費　＋10%）　B/C = 14.8　（事業費　－10%）
事業期間変動　：　B/C = 14.1　（事業期間－1年）　B/C = 13.4　（事業期間＋1年）

事業の効果等

拠点都市間を連絡し相互の連携が強化される
高度医療施設までの搬送時間が短縮される
重要港湾へのアクセス向上が見込まれる　　他１２項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

現在、部分的な開通という非効率な状態であるが、全線開通による経済効果は北関東３県のみならず、首都圏に大きな効果をもたらすものであり、一刻も早い開通が必要である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

伊勢崎～太田桐生間が、平成20年3月に開通。
北関東道は、太田桐生～岩舟JCTを除く区間が供用中。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在工事中。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後も引き続き工事の推進を図る予定。

施設の構造や工法の変更等

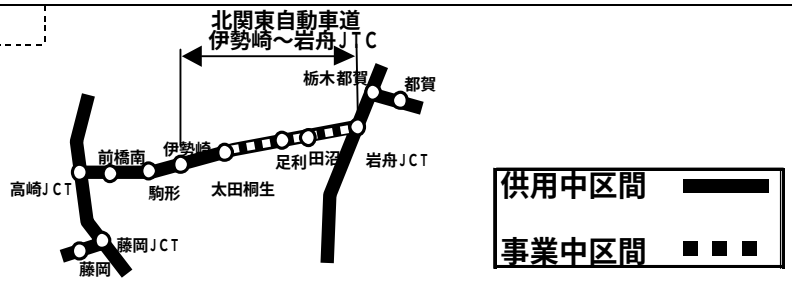
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。

対応方針　継続事業

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変らないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。